

# 浦和区自治会連合会

## 令和5年度 会長講習会 報告書

- 1 日時 令和5年6月20日（火） 午前10時から11時30分まで
- 2 場所 浦和コミュニティセンター 9階 第15集会室
- 3 出席者  
藤枝会長・高橋副会長・石井副会長 他会長42名で計45名の出席であった。
- 4 会長講習会の概要（詳細については講習会資料参照のこと）
  - (1) 司会の石井桂太郎副会長が開会を宣言した。
  - (2) 会長あいさつ  
藤枝陽子会長から出席のお礼、及び浦和区は災害がなく恵まれている地域であるが、いつ災害があるかわからないので、いろいろ勉強し知識と備えが必要であるとの挨拶があった。
  - (3) 前地自治会長及び浦和区防災アドバイザー協会最高顧問の佐々木弘会長より、本日の講師の紹介があった。講師については佐々木会長の他、専門家である（株）ディックオリアスアーキテクツ代表取締役の北島好之先生にお願いした。北島先生は建築士としてさいたま市の他、多くの市町村でまちづくりについての提案、委員等を務められている。  
また、本日の講習会のテーマは「防災に強いまちづくりを考える」と題して講座を行うが、内容は2部構成で1部は浦和区の地震による火災の延焼のシミュレーション、2部は防災型の地区計画について講義を行うとの説明があった。
  - (4) 1部 浦和区における地震による火災の状況
    - ・始めに、佐々木会長より関東大震災から100年目となることから、冒頭、100年前のマグニチュード7.9の首都圏を襲った関東大震災時の火災の映像を流し、説明を行った。
    - ・浦和区では地震時延焼+避難困難リスクがあるとの説明があった。地震発災による火災により、消防力を超える出火と延焼が発生し、延焼により避難ができない人が多数に上るとのことであった。また、建物の全壊も総建物数の約1/2に達するとの説明があった。

- ・火災が発生すると、過半の地域が危険であり逃げ惑い死が500人以上となり、火災から避難できない人が多数出るとのことであった。また、関東大震災時に発生した火災旋風の恐怖についても説明があった。
- ・また、浦和区の火災延焼リスクを様々な事例からシミュレーション映像を流した。それに伴い、避難困難な人を救助するには共助となるが、それには様々な困難が発生するとのことであった。

#### (5) 2部 前地における地区計画の取組みについて

- ・前地地区の現状は、避難支障原因が多数ある地域である。具体例として、行き止まり道路、袋小路開発、旗竿敷地、建て詰まり開発等であり、これらは防災環境悪化の原因であり、これらの抑止の有効策として「地区計画」の取組みがその対応策である。
- ・近年、相続で多発しているのが建て詰まり開発で、80～100坪の宅地を4～6分割する20坪未満の建売住宅で、隣家との隙間がない3階建て木造住宅にする開発が目立ち、発災時逃げ道がなくなってしまうことになる。
- ・前地地区における地区計画の取組みは、①勉強会、②啓発、③素案検討、④説明会、⑤合意確認の順番で地区計画の素案を作成し、地域の土地建物全権利者の総意に基づいて、さいたま市に策定依頼し都市計画決定する必要がある。
- ・前地の地区計画の素案は、①3戸以上の長屋建築を禁止、②最低敷地面積を100㎡とする、③隣地境界と外壁を50cm以上離すこと、④塀の高さ160cm以下、80cmを超える部分をフェンス等にするなどの4点を素案とした。

#### (6) 質疑応答

- ・木崎自治会から地区計画策定にあたっての住民の理解等、ご教示いただきたいとの質問があった。  
佐々木会長より、地区計画策定には特効薬はない。地道に情報を出し続け、時間をかけて住民の理解を得ないと一筋縄にはいかないとの説明があった。

## 5 閉会

高橋副会長が閉会の宣言をした。

令和5年6月30日 浦和区自治会連合会 副会長 石井桂太郎